

# 市民対話・SNSやニュース反応等の議論からのまとめ

第72回(令和4年2月16日)  
新型コロナウイルス感染症対策  
アドバイザリーボード

資料3-9

田中先生提出資料

## 1. ワクチン接種に関する情報アクセス性整備、“家族対話資料”の必要性

- 追加接種についての情報（効果・意義・留保条件等）の編集・アクセス性の向上が必要
- 子供に対するワクチン接種に際し“家族で話し合える”資料が必要
  - 子ども向け資料：読み、意思表示をできる年齢以上向けの資料。
  - 保護者向け資料：判断を迫られる保護者が参照できる資料。

## 2. 感染対策のあり方には迷いが出てきている

- 感染対策のあり方には迷いが生じ始めている。市民対話での例：マスク着用に関して「厳しくすべき」と「必要に応じて緩める」という意見が対立（SNSでも）。
- 感染症対策の知識は一通り普及したが、市民それぞれの生活知の中で習慣化“しすぎて”おり、再整理が必要な時期（例：ウレタンマスクが日常～過剰な拭き掃除）。「ちょうどよい感染対策」について具体的に提示する必要も。

## 3. 行政メッセージの統一

- 首相、コロナ担当3大臣、首長、省庁（&専門家）などのメッセージが相互矛盾・対立しているように伝わり（伝えられ）がち。
- メッセージを修正することが問題なのではなく、相互に変更しているように受けとめられないように工夫が必要。安定したメッセージ部分の確認と変更する部分の共有。

## 4. 長期的な対話を開始・継続する必要

- 社会のあり方に関して、多様な価値観を持つ人々からの傾聴・対話の継続（楽観的な終息論に留まらない、持続可能な議論の涵養）
- それらの対話の場に、想定しうる問題を早期投入して反応を広聴し、議論の俎上に載せることを繰り返すべき

さくり

スケッチ・ダイアログレポート

2022年1月

# 新型コロナウイルス感染症

## への対応をめぐる

## 市民的論点

対話を通じた

問題の素描

放送大学教授 奈良由美子

北海道大学客員准教授 吉田省子

科学コミュニケーション研究所（さくり）

企画支援：JST-RISTEX研究開発プロジェクト「現代メディア空間におけるELSI構築と専門知の介入」（代表：田中幹人）

・2022年1月29日土曜日、新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、市民的論点を素描するため、公募により参加した市民によるオンライン対話を実施した。

・これまでの市民対話は、一般論として次のような点に困難が認められ、政策過程で利用することが難しかった。

- ▼ 政策に反映できるタイミングで結果を得られるスピード感
- ▼ 目的、手法、解釈の明確さと、参照情報としての正当性、利便性
- ▼ 実施コストなど

・本レポートに掲載した対話は、内容としても、タイミングとしても、政策過程で利用可能な参照情報を生み出すために、スピードと精度、実施コストに配慮してデザインした。

・本レポートで用いた手法は、質問紙によるアンケート調査のような定量性はないが、互いの考えや思いを共有し、自ら立てた問いについて調査を行うことで、短い時間、小さな負担で、より熟慮された意見を捕まえ、問題を素描できる利点がある。

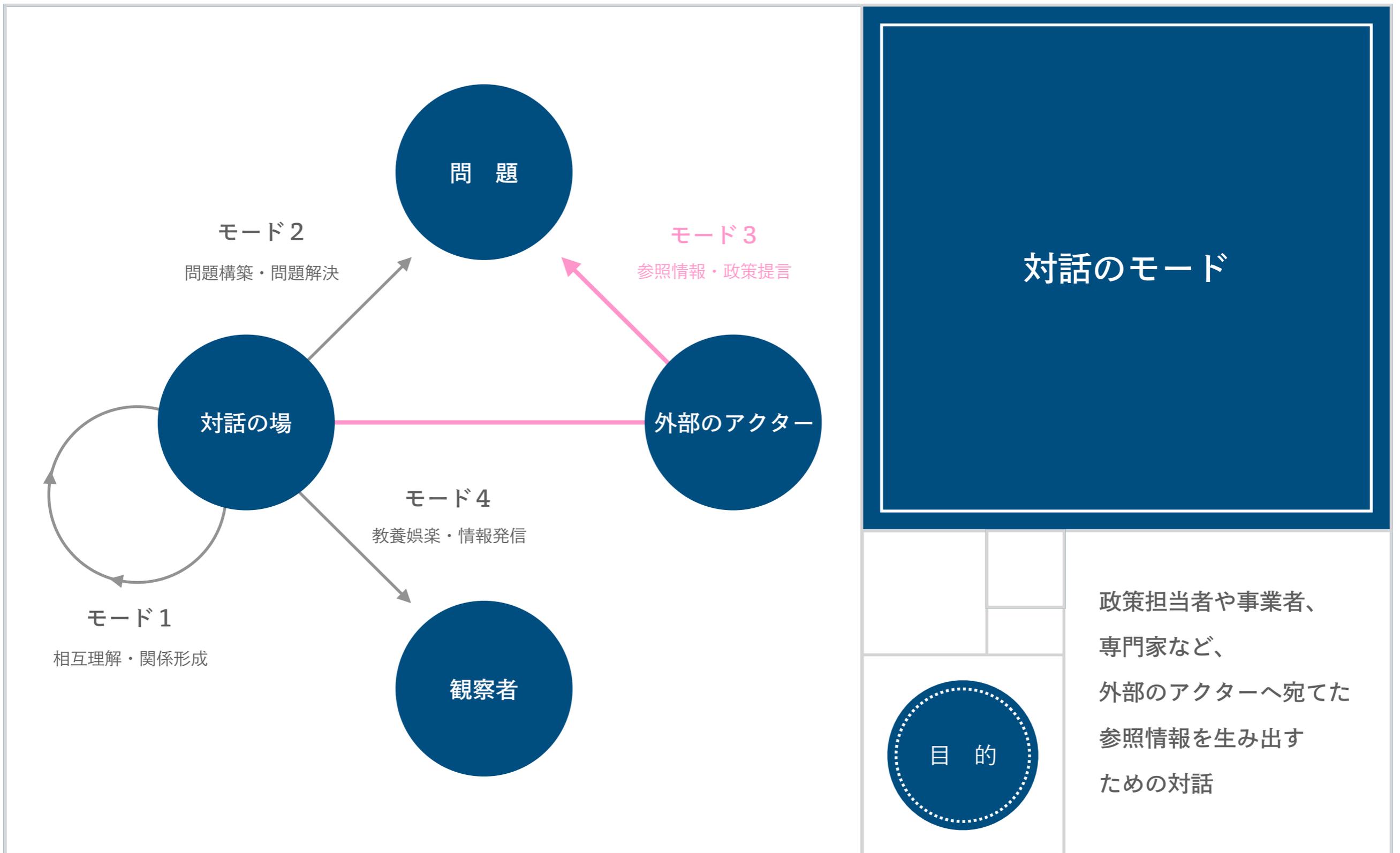
・個々の意見について見ると、参照すべき点がある場合も、ない場合もあるため、目に付いた意見だけを恣意的に取り上げること（チェリーピッキング）は避けるべきである。

・参加者の意見を単純に足し合わせただけでは得られない、対話全体を通じて構築される論点の構造に注目し、政策形成や調査研究のための参照情報としてご利用いただけると幸甚である。

## スケッチ・ダイアログ



市民の対話を通じて  
問題を素描し、  
問題解決に役立つ  
参照情報を生み出す



対話には様々な目的に応じた手法があるが、ここでは対話の場に視座を置き、次の4つのモードとして整理した。本レポートに記載された対話は、主としてモード3の対話を意図している。

- モード1 相互理解・関係形成 対話によって生まれた成果を、対話の場で分かち合い、参加者間の相互理解、創造的な関係を形成することを目的とする。
- モード2 問題構築・問題解決 対話によって、問題を構築し、解決に必要なリソースを持ち寄って、自律的な問題の解決を目指す。
- モード3 参照情報・政策提言 対話によって生まれた成果を、政策担当者、意思決定者など、問題解決に必要なリソースを有する者へ届け、対話の場の外側で問題の解決を図る。
- モード4 教養娯楽・情報発信 対話の場を第三者に対して開き、観察者に教養、娯楽を提供し、情報を共有することを目的とする。

## 1 自己紹介

2 テーマに関する事前評価（4段階評価（評価できる、どちらかという評価できる、どちらかという評価できない、評価できない）と理由）

## 3 チャットワークと対話

テーマに関する以下の点をチャットボックスに3つ記載した後、順番に発表し、全体で対話する。

3-1 よいと思う点

3-2 よくないと思う点

3-3 よくわからない点（疑問点）

## 4 インターネット調査

一人1つの調査項目を選定し、30分間、個別にインターネット調査を実施する。

## 5 調査結果の共有と対話

6 テーマに関する事後評価（方法は、事前評価と同様。）

7 対話を踏まえた追加ワーク

\*詳細は、付属資料参照。

# 対話のプログラム

デザイン

聴くことと話すことを丁寧に切り分け、それを積み重ねることで協働的に問題の構築を図る

3つの対話はすべて、オンライン会議システムZoomを使ったバーチャル空間で実施した。

バーチャル空間は、フィジカル空間と異なる特質を持ち、フィジカル空間での対話手法をそのまま使い回すことができないが、オペレーションやファシリテーションを工夫することで、フィジカル空間の不完全な模倣を超えた、創造的な対話を生み出すことができる。

・イベントの概要

日時 2022年1月29日 土曜日 13時00分～16時30分

主催 科学コミュニケーション研究所（さくり）

実施者 奈良由美子（放送大学）、吉田省子（北海道大学）、田原敬一郎（さくり）、  
白根純人（さくり）

目的 対話を通じて、新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応への  
期待、懸念、疑問点を明らかにする。

参加方法 Zoomミーティング 謝金 4000円（税込）

参加者 一般市民（公募） 8名

参加者の属性

年代	居住地	職業	性別
20代	東京都	医療事務	女性
20代	東京都	フリーター	男性
20代	千葉県	学生	女性
40代	千葉県	介護士	女性
40代	東京都	会社員	男性
50代	東京都	事務パート、Webライター	女性
50代	岡山県	無職	男性
60代	北海道	農業	女性

新型コロナウイルス

感染症をめぐる

行政の対応について



イベントの概要

## 1 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応への評価

- 1) 未曾有の事態への対応に対する一定の理解、ワクチン等の具体策についての効果を理由に、ポジティブな評価が行われた。
- 2) 全体的な印象や、子供へのワクチン接種、ブースター接種、学生に対するケア、在日米軍などへの不安や不満を理由としてネガティブな評価が行われた。
- 3) 対話を通じて他者の意見や知識を得て行政の対応に理解を示した者の評価は高まり、在日米軍が関連する 이슈について調査し、問題意識を高めた者の評価は低下した。

## 2 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点

- 1) ブースター接種、子供へのワクチン接種について一定の評価はするものの、いずれについても説明不足であるとの意見があった。とりわけ、子供へのワクチンについては、子供自身と接種の判断を行う保護者への説明が求められる。
- 2) 長らく不満の種であった検査について、肯定的な意見が増えたものの、検査所、検査キットの不足に対する不満も残った。
- 3) 医療について、事態の改善が評価される一方、感染拡大に伴って、医療機関、医療行政に対する強い不満が存在した。
- 4) まん延防止等重点措置について、一定の評価があるものの、効果、基準、経済とのバランスなど、不満や疑問が存在した。
- 5) 水際対策、濃厚接触者、経済支援に対しては、視点の違いによって賛否が分かれた。
- 6) 学生については、入学試験と比較した国家試験における対応の不十分さ、クラスター発生時の学校名の公表について問題が指摘された。
- 7) 専門家、医療関係者、国、自治体、地域コミュニティ、情報共有について、さまざまな観点からの意見があった。
- 8) いつもながら、今後の見通しについて疑問が呈された。

新型コロナウイルス

感染症をめぐる

行政の対応について

概要

市民的論点

### 3 日本で生活する人々（国民、在日外国人など）の意識や行動に関する課題

1) 「やるべきだがやっていないこと」、「やるべきでないがやっていること」という二方面からの問いに対して、意識・行動、マスク、ワクチン、社会生活、コミュニケーション、信頼、参加の観点から意見が述べられた。

2) 意識・行動については、危機意識や一人ひとりの予防措置、行動制限の緩みが問題視される一方、リスク行動への過剰な批判に対する懸念や、コロナ疲れをその原因とする指摘があった。

3) マスクについては、いわゆる「マスク会食」が定着していないこと、感染者であることを自覚しながらマスクをつけずに人が集まる場所へ行くことが問題として指摘される一方、周囲に人がいない場合でもマスクを外すことができない例も挙げられた。

4) ワクチンについては、義務化すべきであるという意見、反ワクチン活動に対する批判の意見があった。

5) 社会生活については、感染対策による地域や職域のコミュニティが影響を受け、個人の孤立化が進んだこと、地域の活動、施設での面会、学生生活の回復が課題として挙げられた。

6) コミュニケーションについては、情報を自ら得る姿勢、自ら考えるための教育、フェイクニュースに振り回されない社会、価値観の異なる人たちによる対話の場を求める意見があった。

7) 信頼については、ワクチンや感染拡大をめぐって、医療や科学に対する信頼が揺らいだという意見があった。

8) 参加については、選挙に行かない人が多く、投票という形で社会に参加しないことへの懸念が存在した。

## 新型コロナウイルス

## 感染症をめぐる

## 行政の対応について



## 市民的論点

# 1 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応への評価

	対話前の評価	対話後の評価
1 評価できる	0 人	0 人
2 どちらかという評価できる	4 人	5 人
3 どちらかという評価できない	4 人	2 人
4 評価できない	0 人	1 人
対話前後の変化	3→2 1人, 3→4 1人	
ポジティブな評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・濃厚接触者の自宅待機期間の短縮。無料の検査会場の開設。</li> <li>・小さい町なので情報が伝わりやすいと感じます。2回目のワクチンまではとてもスムーズでした。3回目はこれからという感じです。今回のまんぼうの対応はちょっとわからないことが多く聞こうと思っています。</li> <li>・社会に大きな混乱が生まれており、評価は難しいが、初めての事態に行政をあげて全力で取り組んでいることは評価したい。今回の経験を今後活かしてほしい（活かしたい）。</li> <li>・今現在、コロナで重症化している人は前と比べ、少なくなっており、ワクチンの効果などがちゃんと効いていると感じたため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先がわからない中、医療関係者をはじめ国民皆が今の状況を我慢しています。皆さんの広い視点の話を知ることが出来そうだな～と思いながら聞いていました。よくなってほしいという思いを込めて2番にしました。</li> <li>・日本での取り組みを今日のワークショップを通して改めて考えてきましたが、今までになかった感染症に対してここまで取り組みを進めてこられたのは、悪い点もありつつも評価すべきかなと思いました。</li> <li>・皆様のお話をお伺いしたり、情報を調べたりして感じた事としては、今出来る事に精一杯取り組んでいるのではないかと感じました。先が見えないからこそ、現段階で誰が何をどうしても、不満が出てくると思いますし、全員が納得する事は不可能だと思います。不満や不安があるとしたら、行皆政に対してというよりも、新型コロナウイルスそのものに対してなのではないかと感じた為。</li> </ul>
ネガティブな評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチンについては、未だ「絶対に安全」とは言い切れないような状況である事や、効果について疑問を感じる点。また、変異株についての正しい知識が、あまり共有されていない事。完全に気が緩んでしまっている状況から、危機感を感じる。これらの事から、どちらかと言うと評価出来ないと考えております。</li> <li>・対応が遅いように感じるから。</li> <li>・ワクチン接種の対応は迅速で良いかと思いますが、それ以外は対応が遅いのではないかと思います。</li> <li>・ブースター接種の遅れ、米軍等の検疫の不十分さから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の回答と同じではありますが、皆さんの調査報告を伺いながら、改めて行政の説明不足を感じました。最初の感染拡大から既に2年も経っていることを考えると、やはり残念です。特に学生、受験生へのケアが未だに全く不十分であることには問題の根深さを感じました。大学入試改革で迷走し、失敗した、文科行政の罪深さとも同根です。コロナだけの問題ではありません。</li> <li>・いいと思う点より、対応不足など不満のほうが多くあげられるため。</li> <li>・軍基地内のクラスターから市中感染に繋がったことは第6波が最初に顕著になった地域が沖縄、広島、山口の米軍基地の近辺であったことから明らか。日米地位協定によって米国側の検疫の決定権がないとしても、せめて徹底するように要請しておくべきだった。</li> </ul>
その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供のワクチン接種に関しては、国外からのデータはあっても未だはっきりとしたデータ不足なので、行政からの確かなデータ提供などの末に親の判断に託されると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供のワクチン接種に対しては親の判断になると思います。</li> </ul>

## 2 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点 1 / 3

論 点	よいと思う点	よくないと思う点	よくわからない点（疑問点）
ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな町なのでワクチンもスムーズに接種できた。</li> <li>・（途中から）ワクチン接種がスピードアップしたこと。</li> <li>・ワクチンの効果（重症者が減ったため）</li> <li>・無料でワクチン接種出来る事。</li> <li>・アプリによるワクチン接種証明書。</li> <li>・3回目の接種をいつから受けられるかアプリで確認できる。</li> <li>・3回目のワクチン接種について、市のHP等で情報共有されている事。</li> <li>・ワクチン接種（Booster Shot）の3本目をするための対応。</li> <li>・ブースター接種の前倒し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供のワクチン接種の対応が遅い。</li> <li>・ワクチン接種の3本目の対策をしているのは分かるが、対応が遅い。</li> <li>・日本のワクチン行政の弱点が露呈した（国産メーカーへの支援が弱い、HPV問題への逃げの姿勢）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回目のワクチンについて説明が不足。</li> <li>・ワクチンを3回打ったら、はたして大丈夫なのか？我が家は2回目のワクチンで全員発熱、2日寝込みました。</li> <li>・子供のワクチン接種に対する健康面。</li> <li>・ワクチンや薬の承認に時間がかかる理由。</li> </ul>
検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCR検査が無料で受けられる事。</li> <li>・無料でできるPCR検査場の拡充。</li> <li>・無料のPCR検査の増加。</li> <li>・無料のPCR検査が出来る施設。</li> <li>・無料検査会場の開設。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCR検査が無料で実施しているのは分かるが、場所が少ない。</li> <li>・検査キットが足りていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCR検査キットの普及が滞っている理由。</li> </ul>
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発熱外来で受診できる医療機関が増えたこと。</li> <li>・患者さんの情報をサイトで共有できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パルスオキシメーターで正常範囲であれば救急搬送されないうで死亡されている方のニュースを耳にする。</li> <li>・医療事務に負担を求めすぎ（受け入れと患者数報告等）。</li> <li>・感染拡大で医療機関や保健所業務ひっ迫。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症電話相談窓口の対応がイマイチ。（喉の痛みがある状態で問い合わせをして、マニュアル通りの情報を聴取された為、咳が出る人などは辛いと思う）</li> <li>・東京都発熱相談センターの対応（積極的に病院に行く事を勧められる事はなかった）</li> <li>・協力しなかった病院の名前の公表。病院ごとの状況の違いをもっと勘案すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所の職員が補充できないのか。</li> <li>・病床の拡充が滞っている理由。</li> </ul>

## 2 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点 2 / 3

論点	よいと思う点	よくないと思う点	よくわからない点（疑問点）
まん延防止等重点措置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まん防などの対応が柔軟になったこと。</li> <li>・状況に合わせて制限を変更させた点。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言を躊躇してまん延防止で対応していること。</li> <li>・まん延防止の対策をしたからと言って状況が大きく変わると思わない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔓延防止措置・緊急事態宣言と経済効果の優先度。</li> <li>・緊急事態宣言やまん延防止にする基準が、はっきりしていない。</li> <li>・「まん延防止等重点措置」の効果や効力。</li> <li>・まん延防止等重点措置と緊急事態宣言との違い。</li> <li>・今回の蔓延防止に関する施設の閉鎖に関する基準を行政に問い合わせようと思っている。</li> </ul>
水際対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国からの入国禁止、海外からの渡航制限をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国からの入国禁止、海外からの渡航制限の基準の曖昧さ。</li> </ul>	
濃厚接触者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・濃厚接触者の自宅待機期間の短縮。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・濃厚接触者の定義の曖昧さ。</li> </ul>
経済支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民税非課税世帯、子育て世帯への給付。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店を廃業したり、仕事がなくなったりと困ってる人に支援が届いているのか疑問。</li> <li>・何らかの給付金と自粛要請をセットで行う必要性を感じる。</li> <li>・一律の給付金が一昨年の一回しか配布されていないこと。</li> </ul>	
学生		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の試験に対する対応の違い(厚生労働省と文部科学省)。共通テストは手厚く対応されているが、国家試験に対するコロナ対応は不十分。</li> <li>・クラスターになったとき、学校名の発表が小中学校はされない、公立の高校中心で不公平がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ試験の対応に違いがあるのか。</li> </ul>
専門家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾身さんを代えていないこと</li> </ul>		
医療従事者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療従事者のありがたみがよくわかった。</li> </ul>		

## 2 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点 3 / 3

論 点	よいと思う点	よくないと思う点	よくわからない点（疑問点）
国		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会を開いていないこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大臣（行政部局）の役割分担。</li> <li>・国がどんな支援を準備しているのかわからない。</li> </ul>
自治体		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治体ごとに対応がバラバラ。対応できる病院や検査の拡充で都会との格差を感じる。</li> <li>・都会と田舎がやはり格差があると話を聞いていて感じました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町村の窓口は？</li> </ul>
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな町で顔の見える関係の中で安心感がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田舎は誰が感染したかあっという間に広がる。</li> </ul>	
情報共有		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック前の情報統制？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報公開のルール。</li> </ul>
今後の見通し			<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の展望（Go To等経済の観点と予防の観点とのバランス）</li> <li>・どうなれば日常に戻るのか、今後の展望</li> </ul>

### 3 日本で生活する人々（国民、在日外国人など）の意識や行動に関する課題

論 点	やるべきだができていないこと	やるべきでないがやっていること
意識・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクや手洗いなど行政が届かないところでの国民人それぞれからの努力。・人込みや外出を最低限に控えるなど</li> <li>・東京に遊びに出向くなど行動制限</li> <li>・新型コロナウイルスに対して、「正しく恐れる」事がキープ出来ていない。（一時期の危機感が薄れ、感染拡大を止める事が出来ていない。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行などの感染リスクのある行動に対して必要以上のバッシング</li> <li>・課題の意識や行動に着目点を置いてですが、2年以上も続いているコロナに対して疲れている部分があると思います。</li> </ul>
マスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「会食」について マスクを外した状態（食事中）に会話せず、食べ終わってから話す。という事が、徹底出来ていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で散歩に行く時など、周囲に人がいない時はマスクを外して良いと思うものの、常にマスクを着用している。</li> <li>・自身が新型コロナウイルスに感染していることがわかっていながらマスクをせずに人の集まる場所に出向くこと。</li> </ul>
ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン接種を義務化すべき（成人）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反ワクチン 反マスクデモ（すべきでない）</li> </ul>
社会生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動 地域でNPO活動をしています。今回の蔓延防止の措置のためいろいろな集まりがすべて延期です。人のつながりが断たれていています。町のお祭りは2年連続中止、果たして今年私たちは重い腰を上げることができるのか？自治会の集まりもほとんど中止。残念です。</li> <li>・施設での面会 母の施設はリモートの面接も中止です。これはできるんじゃないかと思うのですがなかなか言えません。長い間会えてません。</li> <li>・学校生活 ・大人が付かれていますので子供たちは学生生活（部活動や修学旅行等）を思い通りに過ごせず残念な思いです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の孤立化 今回のコロナ禍で人と人の中に「社会的距離」が生まれてしまいました。感染対策には有効ですが、地域や職域のコミュニティが大きく傷ついたと思います。一人暮らしの人が増えて人と人の繋がりが薄れてきた中で、さらに追い打ちです。「個人の孤立化」の克服は、深刻な社会問題だと思いません。</li> </ul>
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を得ようとする事。</li> <li>・情報に振り回されず、自分で考えるための教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェイクニュース 科学コミュニケーションへの意識を高め、国民が間違った情報に振り回されない社会を作りたいです。日テレ榎キャスターの科学コミュニケーターへの転身は、嬉しいニュースでした。</li> <li>・本ワークショップのような価値観の異なる人たちでの対話</li> <li>・対応に対する意見を述べる事</li> </ul>
信頼		<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術不信 日本がワクチン接種で遅れをとったこと、第5波、第6波とどんどん規模が大きくなっていることは、日本の医療や科学に対する国民の信頼を揺るがしました。</li> </ul>
参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙に行かない人が多いこと。</li> </ul>	

# インターネット調査の結果（概要）

調査項目	調査結果の概要	出典・参考情報	評価
「まん延防止等重点措置」と「緊急事態宣言」との違いについて	対象範囲、期間、内容、罰則、発出の目安などについて、違いを明らかにした。	不明	ソースは示されていないものの、おおむね妥当な調査結果を得ている。
国や自治体のコロナ禍で影響を受けている個人事業主に対する支援	中小企業支援金、国民健康保険の減免、事業復活支援金による支援がなされていること、地方創生臨時交付金は個人事業主に届いていないこと、商工会のHPに必要な情報がないことなどを明らかにした。	居住する自治体のHP	公的機関の公表資料から、おおむね妥当な調査結果を得ている。
3回目のワクチン接種の効果、副作用、接種率について	3回目のワクチン接種の効果、副作用について、行政の視点で公表されている事実を明らかにした。	東京都福祉保健局のHP	公的機関の公表資料から、おおむね妥当な調査結果を得ている。
子供のワクチン接種の考え方	子供に接種する意義、海外の状況、接種量、集団免疫の獲得ではなく個人の重症化防止が目的であること、接種体制、集団接種会場の設置に関する注意点が示されているなどを明らかにした。	厚生労働省のHP、朝日新聞DIGITAL、BBC NEWS JAPANのHP	公的機関の公表資料やメディアに掲載された有識者の意見から、おおむね妥当な調査結果を得ている。
子供に対するワクチン接種とそれらの効果	ワクチン接種の意義、安全性、接種対象、副反応等、接種における注意事項、ワクチン接種後、小児コロナ患者の現状について、関連学会の見解を明らかにした。	日本小児科学会のHP	専門家団体の公表資料から、おおむね妥当な調査結果を得ている。
コロナ関係3大臣（コロナ担当大臣、ワクチン担当大臣、厚生労働大臣）の役割分担の設定と、3人大臣がいることによって起きている具体的な問題事例について	コロナ関係3大臣について、所掌範囲、菅内閣と岸田内閣による説明の違い、発令の有無について明らかにした。	不明	ソースは示されていないものの、おおむね妥当な調査結果を得ている。3大臣がいることによって起きている具体的な問題事例については、不明。
米軍属等の入国時の検疫が不十分な理由について	在日米軍に対して出入国時に行われた検査の実態、日米地位協定上の扱い、今後の検査方針について、明らかにした。	沖縄タイムス+プラスのHP、外務省のHP	メディアに掲載された公的機関の発表、有識者の意見から、おおむね妥当な調査結果を得ている。
なぜ試験に対する対応に違いがあるのか	共通テストと国家試験における、新型コロナウイルス感染症罹患者等への対応の違いと理由、過去の大雪に際して実施された看護師試験の追試などについて、明らかにした。	文部科学省のHP、厚生労働省のHP、神戸新聞、NHKニュース、東京新聞 TOKYO WebのHP	公的機関の公表資料やメディアに掲載された有識者の意見、行政担当者の見解から、おおむね妥当な調査結果を得ている。

# 資料

# 対話型市民調査

新型コロナウイルス感染症をめぐる  
行政の対応について

科学コミュニケーション研究所

さくり

さくり

2022年1月29日

ファシリテーション

田原敬一郎（さくり）

奈良由美子（放送大学）

吉田 省子（北海道大学）

ディレクション

白根 純人（さくり）

スタッフ

さくり

- ・ イベント名 対話型市民調査
- ・ テーマ 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について
- ・ 主催 科学コミュニケーション研究所 さくり
- ・ 目的 対話を通じて、テーマに関する問題の構造を明らかにする。
- ・ 方法 チャットを用いながら、評価できるところ、できないところ、疑問点を話し合い、テーマを一つずつ選んでインターネット調査を行う。
- ・ 参加者 一般市民（知識、経験不問） 8名程度（公募、紹介）
- ・ 参加方法 Zoomミーティング
- ・ 謝金 3600円（税込） 翌月10日指定口座に振込
- ・ 調査結果の利用方法
  - 1 調査結果は、参加者個人が特定できる情報を一切除外して報告書としてまとめ、一般に公開します。
  - 2 映像、音声、文字起こしなどの記録は、科学コミュニケーション研究所の関係者（守秘義務を負う者）を除いて開示しません。
  - 3 参加者は、調査の内容、とくに他の参加者の個人情報に関わることについて、口頭、SNSを含め、第三者へ開示することはできません。（イベントの概要、参加した事実は、除く。）

## 対話の概要

さくり

- ・ スタッフの紹介
- ・ 調査の概要
- ・ 全体の流れ
- ・ Zoomの操作方法
- ・ テクニカル・サポート
- ・ 注意事項
- ・ 対話のルール
- ・ 自己紹介
- ・ 情報提供
- ・ 対話

## 全体の流れ

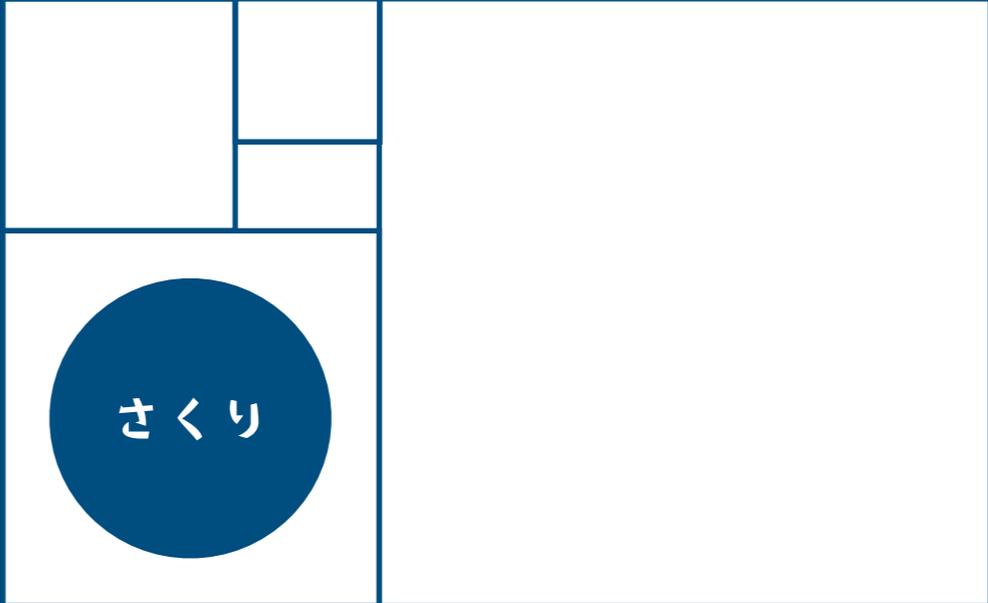
さくり

## ユーザーが操作する機能

- 1 オーディオ
- 2 ビデオ
- 3 チャット

その他の操作は、画面に表示されるメッセージに従ってください。

## Zoomの操作方法



さくり

## パソコンの場合 「チャット」の開き方

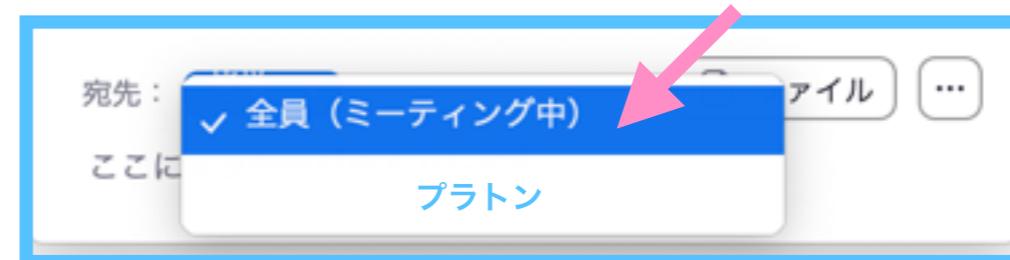
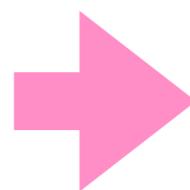
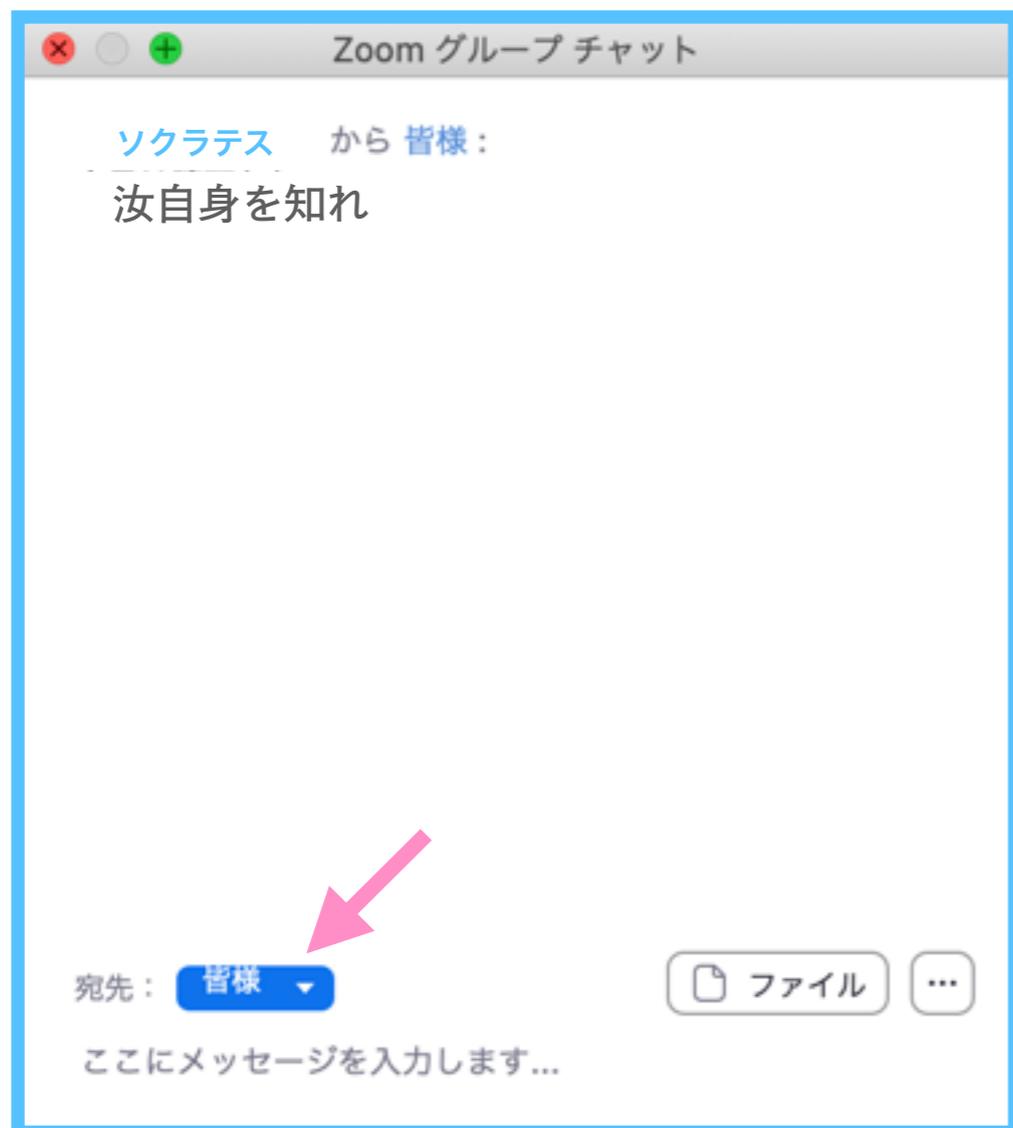
- 1 操作パネルに「チャット」メニューが表示されている例



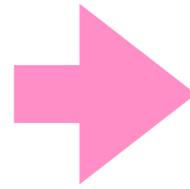
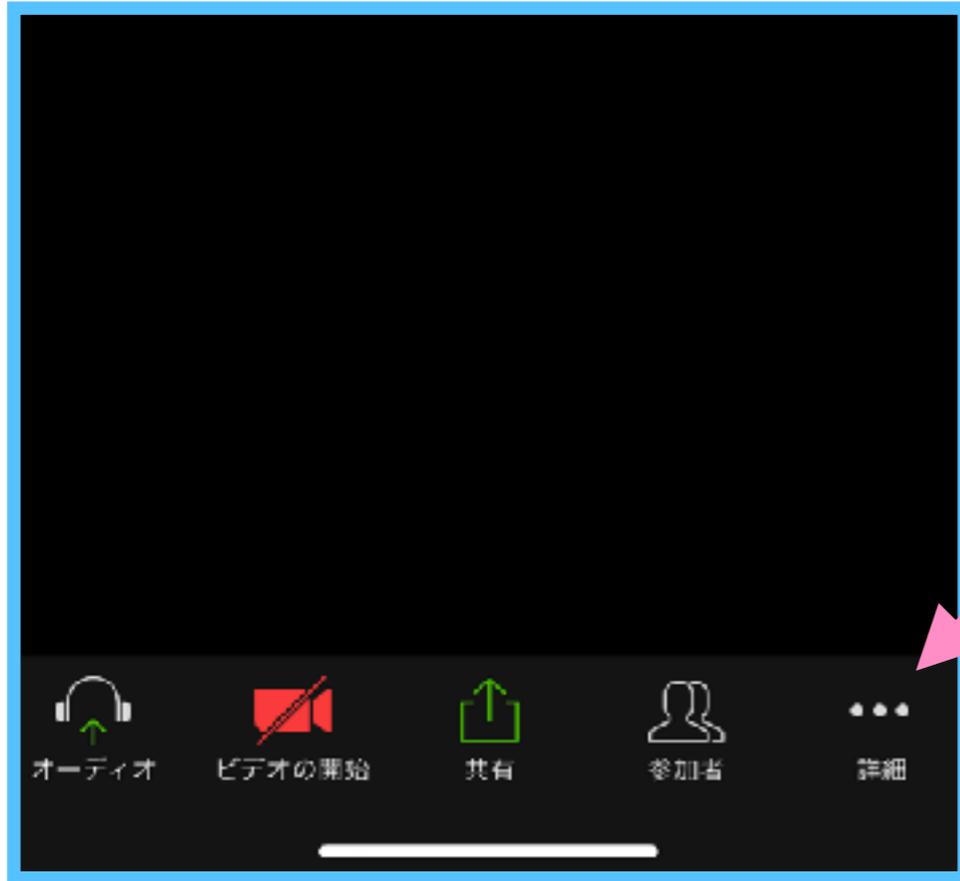
- 2 操作パネルに「チャット」メニューが表示されていない例



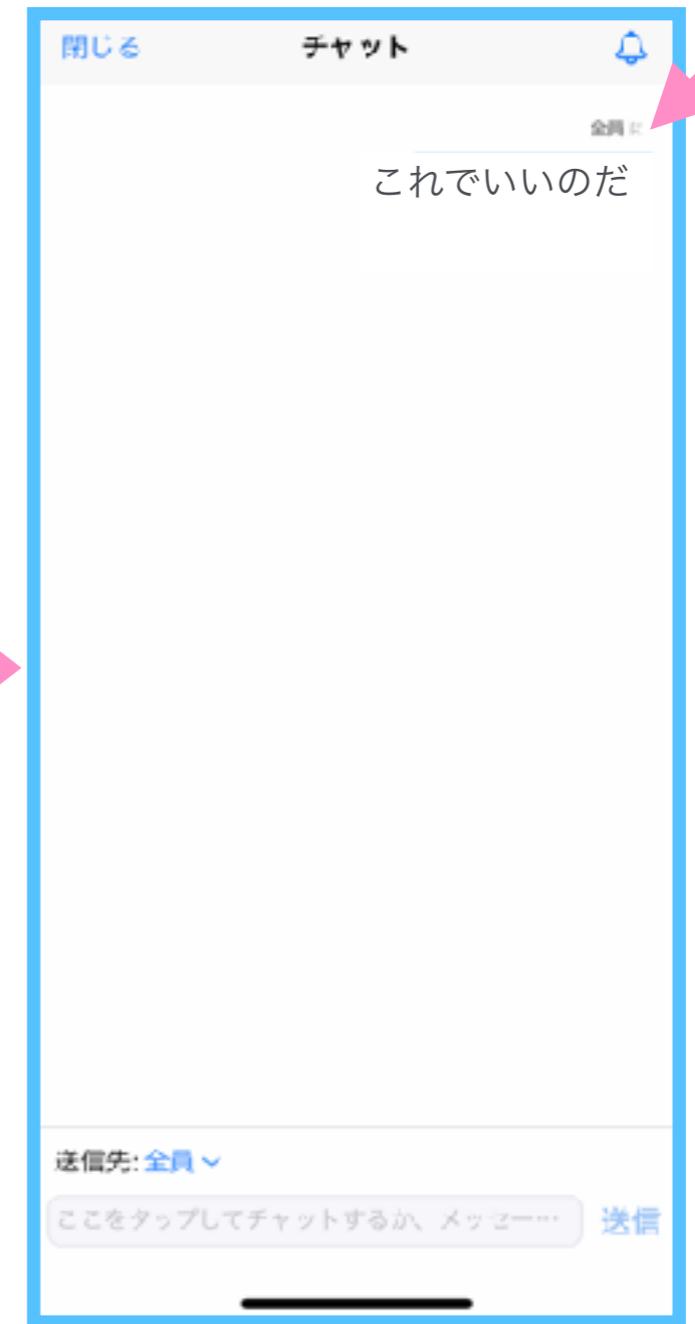
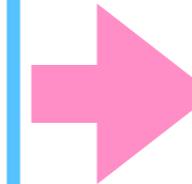
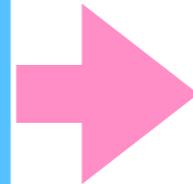
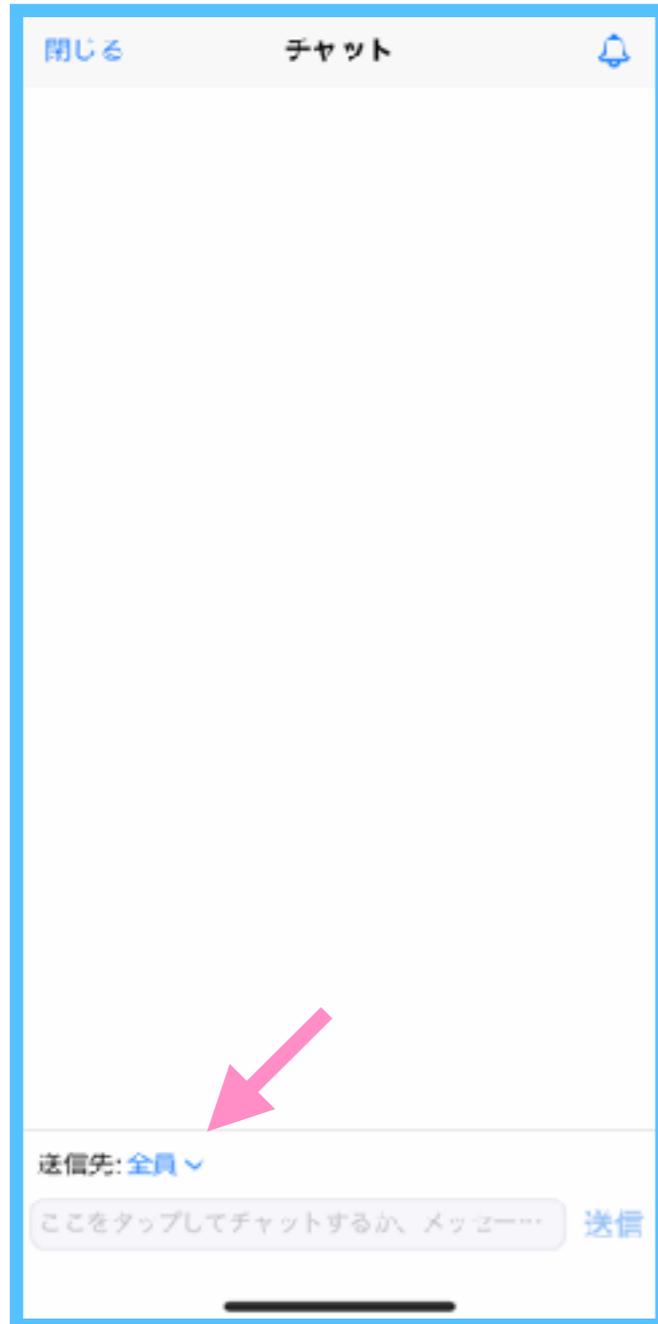
## パソコンの場合 全員宛メッセージの送り方



# スマートフォンの場合 「チャットの開き方」



# スマートフォンの場合 全員宛メッセージの送り方



Zoomの技術的な支援が必要な場合は、

さくりZoomサポート

[zoom@scri.co.jp](mailto:zoom@scri.co.jp)

までご連絡ください。

システムトラブルにより、Zoomの回線が切断されてしまった場合、画面がフリーズしてしまった場合は、ログインし直してください。

万が一システムが復旧しない場合は、次のサイトで、対応方法についてご連絡いたします。

さくりホームページ

[www.scri.co.jp](http://www.scri.co.jp)

## テクニカルサポート



さくり

- ・マイクやカメラを通じて、プライベートな情報が共有されないようご注意ください。
- ・飲食やキーボードに入力、来客など、止むを得ず雑音が生じる場合は、マイクをミュートにしてください。
- ・このワークショップの映像、音声、チャットの記録は、主催者によって記録されます。
- ・チャットは一度送信すると削除できません。送信前に内容をよくご確認ください。
- ・ワークショップの進行、内容に関することは、ファシリテーターに質問するか、チャットで質問してください。

## 注意事項

さくり

## 対話のルール

- ・一人ひとりの考え、想いを大切にする。
- ・おたがいの違いや多様性から学び合う。
- ・全員が話せるチャンスをつくる。
- ・いつも考えていることにとどまらず、  
その場で感じたこと、  
話し合いの中で生まれたアイデアを大切にする。
- ・フラットな関係で話し合うために、  
おたがいを「さん」づけで呼ぶ。

さくり

## 自己紹介

ファシリテーターに指名されたら、

- 1 おなまえ
- 2 お住まい、おしごと（話せる範囲で）
- 3 今日のお昼ごはんを食べた感想

を30秒以内にお話してください。

お話が終わったら、**親しみを込めて拍手**しましょう。

さくり

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、  
現在の知識と直感を頼りに、次の選択肢の中からご自身のお考えに近いものを選び、チャットボックスに番号とそれを選んだ理由を入力して下さい。

- 1 評価できる
- 2 どちらかという人评价できる
- 3 どちらかという人评价できない
- 4 評価できない

記入例 1 . . . . . だから。

## アンケート



記入時間  
3 min

# チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、

よいと思う点はどこですか？

あなた自身のことでも、周りで言われていることでも構いません。

3つ以上チャットボックスに記入してください。

## ワーク 1

よいと思う点はどこですか？



記入時間  
3 min

# チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

## ワーク 2

よくないと思う点はどこですか？

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、

よくないと思う点はどこですか？

あなた自身のことでも、周りで言われていることでも構いません。

3つ以上チャットボックスに記入してください。

さくり

記入時間  
3 min

# チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

## ワーク 3

よくわからない点（疑問点）はどこですか？

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、

よくわからない点（疑問点）はどこですか？

あなた自身のことでも、周りで言われていることでも構いません。

3つ以上チャットボックスに記入してください。

さくり

記入時間  
3 min

# チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

これからインターネットを使った調査を行います。

いまの話し合いを踏まえて、

自分が調べたいと思った疑問点を、ひとつだけ、

チャットボックスに記入してください。

(注意)

- ・ 調査時間は、休憩を含めて30分間です。
- ・ 3回程度、検索してまとめられる分量が目安です。
- ・ 検索キーワードが思い浮かぶくらい具体的に  
お書きください。

## ワーク4

### 調査テーマの選択

さくり

記入時間  
3 min

# チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

これから、ご自身が選んだ調査テーマについて、インターネットで調査します。

- ・調査結果のまとめ

パソコンの方 Wordなどのワープロソフト

スマホ・タブレットの方 メモ帳などの文字が入力できるアプリ、またはお手元の紙

※調査後、おひとりずつ発表いただき、イベント終了後に、ファイルや手書きのメモ（写真）をお送りいただきます。

- ・記載の方法

箇条書きで良い。コピペでなく、自分の言葉で。

情報源（URLやサイト名、文書名など）をできるだけ書く。

## ワーク5

### インターネット調査

調査時間  
30 min

さくり

## ワーク6

### 調査結果の共有

調査したことを、順番に発表します。

ひとりの発表が終わったら、ねぎらいを込めて拍手  
しましょう。

さくり

一人当たりの  
発表時間  
2 min

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、対話と調査の結果を踏まえて、次の選択肢の中らご自身のお考えに近いものを選び、チャットボックスに番号とそれを選んだ理由を入力して下さい。

- 1 評価できる
- 2 どちらかという人评价できる
- 3 どちらかという人评价できない
- 4 評価できない

記入例 1 . . . . . だから。

## アンケート



記入時間  
3 min

# チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について話し合ってきましたが、

やるべきだができていないこと、やるべきでないがやっていることなど、日本で生活する人びと（国民、在日外国人など）の意識や行動については、どんな課題がありますか？

あなた自身のことでも、周りで言われていることでも構いません。

3つ以上チャットボックスに記入してください。

## ワーク7

日本で生活する人びと  
(国民、在日外国人など)  
の意識や行動について



記入時間  
2 min

# チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

## 事務連絡

- 1 インターネット調査の結果は、**本日中に**、メールで提出してください。

宛先 さくり 対話ラボラトリ

[zoom@scri.co.jp](mailto:zoom@scri.co.jp)

- 2 お送りするURLを開いて、本日の調査に関する**アンケート**にご回答ください。

- 3 本日初めて参加された方は、あわせて、**振込先の情報**を登録してください。



さくり

つぎの一步を **ごいっしょに**。

ありがとうございました

適宜、ご退出ください



手を振ってお別れ